

# 一生懸命、運動に取り組む 子どもの育成

## 大分県別府市立境川小学校

全校児童数	402名(男子192名 女子210名)		
全クラス数	18	教職員数	34名
体育専科教員訪問学校数			2校
訪問校	別府市立山の手小学校 別府市立南小学校		
体育専科教員名		伊東 雅弘	

### Plan：取組時の課題と計画

#### 1 取組み時の課題

##### ◆一生懸命、運動に取り組む子どもの育成

体育専科教員が入って3年目。体育の授業は3、4年生に週2時間ずつクラスに入って行く。今年も引き続き体育専科教員による系統的な体育学習、日常的な体力づくりを行い、子どもたちが自ら挑む体育を目指し「一生懸命、運動に取り組む子どもの育成」に取り組むことにした。

#### 2 取組みの計画

##### ① 体育学習での取組み

- ・体育専科教員を中心にTT体制で体育学習に取り組む。本務校、兼務校ともに、いくつかの単元でT1を担当にしてもらい、指導力アップも図る。
- ・授業の流れを示し、子どもに「次に何をやる」という見通しをもたせる。また「今日、何を上手にするか」めあてを持たせ、時間いっぱい取り組めるようにする。

##### ② 日常生活での取組み

- ・毎日、朝と中休み、50m走に取り組めるようにする。

##### ③ 兼務校以外の小学校への取組み

- ・授業方法の紹介として、訪問授業を行い、指導力アップを図る。

### Do：実践内容

#### 1 体育活動の実践

##### (1) 体育専科教員と担任とのTT体制、少人数指導

いくつかの単元で、T1を担当が行い、T2を体育専科教員が行う。特に、リレー、ティーボール、水泳、ハードル走では、3時間目以降から、担任が全体の流れを指導し、体育専科教員が技術的なアドバイスを行うようにした。また、走り幅跳びと鉄棒の授業では、兼務校でも、担任と指導の種目を分け、半数ずつ指導することにより、子どもに多くの挑戦ができるようにした。

##### (2) 学習の流れ「45分間、フルに体育」

授業時間を有効に活用し、常に体を動かす工夫をした。

- ① 指導の流れを毎時間、同じにして、子どもたちが1時間の見通しを持てるようにした。
- ② めあてを持たせ、振り返りをさせることで、今日は何をがんばるかをわかりやすくした。(学習カード等)

##### (3) 兼務校以外の小学校に訪問授業

ハードル走、タグラグビー、マット、跳び箱の訪問授業を2時間ずつ行った。

#### 2 毎日取り組む50m走

朝の始業前と中休みの時間に、50m走に毎日取り組み、

運動の基礎づくりをした。学習カードを使い、個人でも、学級でも目標を持って学級全体で取り組んだ。(年間)

#### ●工夫したこと(&苦労した点)

- ① 授業に入っている学級以外にも指導例として、指導の流れ、場の設定の工夫等をプリントにして紹介した。水泳等は他の学級に訪問授業し、指導方法を紹介した。
- ② 見合い・学び合い：リレー、ティーボール、ハードル走、ハンドボール等の学習において、児童はグループ内でアドバイスをしたり、教え合ったりできた。
- ③ 少人数指導：走り幅跳びと鉄棒を組み合わせて、半数ずつ行った。2種目とも多くの挑戦ができ、伸びた子どもも多かった。

#### Check：取組の成果

- ① 校内のアンケート調査の結果では、全員の先生が、「指導が、段階を追ったスモールステップなので、子どもがいつのまにか少しずつ上手になっている」「子ども同士がポイントを評価するので、コツがわかり、自分でも意識している」「紹介された指導方法を使って実践した」等、授業の参考になったと答えた。
- ② 学習カードを使って、「めあて・ふり返り」を書かせ運動を主体的に行わせたり、体を動かしている時間を増やしたりしてきた。校内で行っているアンケート調査の結果では、91%の子どもが「運動を一生懸命した」、80%の子どもが「体育が好き」と回答していた。
- ③ 50m走は各自の学習カードも学級のカードも定着し、目標の2枚以上を達成した。
- ④ 兼務校以外の小学校に授訪問業を行い、指導方法を紹介した。

#### Action：今後の課題

- ① 体育学習の指導方法の工夫として、授業の中に子ども同士の学び合いの場を仕組むこと、ICTを活用すること、運動量を確保することで、運動に対する興味、技術の向上が見られる。今後は学び合いの仕組み方、ICTの活用法を工夫する。
- ② 担任の指導力アップのため、体育専科教員と一緒にTT体制で実践していく。担当クラス以外にも指導方法を紹介する。
- ③ 50m走のさらなる充実に向け、学級の係活動や体育委員会の取り組みと関連させることも必要である。

#### ◎体力向上の取組がもたらす波及効果

休み時間に、外遊びをする子どもが増え、ボール遊び、遊具だけでなく、鉄棒・なわとび・一輪車・おにごっこ・リレー等の遊びも盛んに行われるようになった。

授業の流れを同じにして、1 時間の見通しをもち、45 分間、フルに体育

走る → 準備運動 → めあての確認 → 練習・アドバイス → リレー1 → 作戦の立て直し・学び合い  
 → 練習・アドバイス → リレー2 → ふりかえり → 片付け



グループで学び合い・アドバイスし合うことで、バトンパスが早くなり、タイムも伸びた。

担任の T1 の授業 「ティーボール・ハードル走」



体育専科教員の紹介した授業方法を使って指導力アップ

兼務校の授業 「幅跳び・鉄棒」



2種目することで、数多くの挑戦ができ、記録、技も伸びた。

訪問授業 「ハードル走」



指導方法の紹介